

令和7年度 学校評価(教諭/実習助手)

【所属学部 全教諭】

n= 158 / 196 80.6  
回答者数 教諭数 %

※ 80%以上、80%未満を基準に良好、要改善について考察

評価 ◎:当てはまる ○:ある程度当てはまる ▲:あまり当てはまらない ×:当てはまる

領域	No.	項目	評価内容	◎	○	▲	×	無回答	回答者数		%表示		グラフ %表示 (良好: 青 要改善: 赤)
									(◎○良好 ▲×要改善)	(◎○良好 ▲×要改善)			
学校運営	1	教育目標の実現	校長のリーダーシップのもと、教職員間で協力・協働し、美咲特別支援学校の教育活動に取り組んでいる。	70	84	4	0	0	154	4	97	3	
	2	校務の遂行	校務の遂行にあたり、関係部署と情報共有・連携して組織的・計画的に取り組んでいる。	86	70	1	1	0	156	2	99	1	
	3	人権意識	日頃の言動等について、幼児児童生徒の人権に配慮した対応を意識している。	105	53	0	0	0	158	0	100	0	
	4	法令遵守	体罰防止、個人情報保護、守秘義務等の法令遵守の徹底に努め、私費会計等については適正に処理している。	137	21	0	0	0	158	0	100	0	
働き方改革	5	働きやすさ	同僚・管理者との良好な人間関係の構築ができています。	92	61	5	0	0	153	5	97	3	
	6		個人の裁量(ゆとり)ある時間の確保ができています。	27	73	43	15	0	100	58	63	37	
	7	働きがい	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができています。	69	86	3	0	0	155	3	98	2	
	8		より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	43	94	19	1	1	137	20	87	13	
	9	心身の健康	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	34	87	33	4	0	121	37	77	23	
進路指導(キャリア教育)	10	カリキュラムマネジメント	学習指導要領を踏まえて編成した教育課程を理解し、系統的・一貫性のある教育活動に向け、学級・学年・教科・学部間で連携して取り組んでいる。	50	95	10	3	0	145	13	92	8	
	11	学習指導	幼児児童生徒個々に応じた「個別の指導計画」を活用して、学習評価を行っている。	66	88	4	0	0	154	4	97	3	
	12		自立活動の指導において、幼児児童生徒個々の実態から捉えた「個別の指導計画」を活用して、学習評価を行っている。(流れ図等を作成・活用している)	68	84	6	0	0	152	6	96	4	
	13	授業改善	分かりやすい授業の創意工夫を図り、幼児児童の興味・関心を活かした主体的・対話的で深い学び等に向けて授業改善に取り組んでいる。	78	77	3	0	0	155	3	98	2	
	14	研修・専門性の向上	校内研修の充実及び研究授業等による授業改善に取り組む専門性の向上に努めている。	61	88	9	0	0	149	9	94	6	
	15	ICT活用	ICTを活用して授業(パソコン、電子黒板、タブレット等)や業務を行っている。	59	88	9	2	0	147	11	93	7	
	16	情報教育	情報モラル等(適切な使い方やルール)について幼児児童生徒の実態に応じた指導を行っている。	53	90	13	2	0	143	15	91	9	
	17	言語活動の充実	日々の授業において発達の段階に応じた言語能力の向上や、読書活動等を通して言語活動の充実を努めている。	63	85	10	0	0	148	10	94	6	
	18	「個別の教育支援計画」	幼児児童生徒個々の教育的ニーズに応じた「個別の教育支援計画」を作成し、活用して教育活動の充実を努めている。	76	80	2	0	0	156	2	99	1	
19	進路指導(キャリア教育)	幼児児童生徒個々の将来を見据え、保護者・関係職員、外部機関等と連携し、発達の段階に応じた進路指導(キャリア教育)を計画的に行っている。	58	92	8	0	0	150	8	95	5		
生徒指導	20	教育相談	保護者や幼児児童生徒等、相談者のニーズに応じた教育相談・就学相談に対応している。	74	79	6	0	0	153	6	97	4	
	21	不登校・問題行動	不登校及び問題行動等について、早期発見・未然防止に努め、関係部署や関連機関と連携し、早期解決に向け、組織的に対応している。	78	74	6	0	0	152	6	96	4	
	22	いじめ対策	いじめについて、早期発見・未然防止に努め、関係部署と連携し、早期解決に向け、組織的に対応している。	88	68	2	0	0	156	2	99	1	
PTA	23	PTA	PTA活動について、教職員・保護者間で連携しながら取り組んでいる。	64	83	11	0	0	147	11	93	7	
健康・安全	24	給食/食育	幼児児童生徒の健康・栄養・食事について発達の段階に応じて指導している。	76	77	5	0	0	153	5	97	3	
	25	保健教育	性教育・保健教育(薬物乱用防止、心のケア等)や各種感染症の予防について、幼小中高各学部の発達段階に即した指導を行っている。	67	79	11	1	0	146	12	92	8	
	26	安全教育	緊急時・災害時の対応について、幼児児童生徒の実態に即した訓練及び自分の身を守るための安全について指導している。	91	64	3	0	0	155	3	98	2	
	27	安全管理	安心・安全な教育活動のため、普段から危険予知を心掛け、施設・設備の点検・改善及び環境(校内美化)の維持に努めている。	82	71	5	0	0	153	5	97	3	
28	スクールバス	スクールバスの安全に留意した運行に向け、保護者・バス部等との連携を図っている。	66	61	5	2	24	127	7	80	4		

所属学部(全教諭)

考察	
80%以上	①全28項目において、26項目が80%以上の良好な評価を示した。また、17項目は95%以上となっている。 ②No.3「人権意識」及びNo.4「法令遵守」では100%の職員が良好な評価を示した。人権、体罰防止、服務規律、適切な私費会計の処理について教諭が意識を高く持ち職務にあたっていることが窺える。 今後も、人権教育、人権意識をテーマに服務研修を行い、教師の言葉の伝え方や対応について適宜全職員向けに周知を行いつつ、人権意識や法令遵守を徹底し信頼される学校として取り組んでいきたい。
80%未満	No.6「働きやすさ」及びNo.9「心身の健康」の2項目は、80%を下回る結果となった。No.6では37%、No.9では23%の回答者が要改善を示している。 この2項目は密接に関連していると考察でき、令和6年度より新設された「働き方改革」に関する項目でもあるため、継続課題と各学部・各部署と連携し改善に向け取り組んでいく。 ※9月に実施されたストレスチェックの結果との関連では「働きがい」、「活気」、「仕事や生活の満足度」では良好な数値を示している点にも注視しつつ、次年度以降、No.6「働きやすさ」及びNo.9「心身の健康」の2項目の改善に向けて学校全体として取り組んでいく必要がある。
その他考察	①回答率が19.1%改善し、80.6%であった(R6年度は61.5%)。学校評価回答への教諭の理解と協力、意識向上によるものであると考察する。 ②令和6年度より新設された「働き方改革」に関する項目は、学校として働き方について考察できる良い機会であるため、引き続き、学校評価を通して学校運営のPDCAにつなげる意識を高めていく。 ③回答項目の、「当てはまる」「やや当てはまる」に注目すると、28項目中、13項目で「ある程度当てはまる」を選択する傾向が見られる。良好な評価において、「当てはまる」の選択が増えるよう、各領域・項目でのPDCAを機能させていく。 ④No.1「教育目標の実現」については、本校のグランドデザインや学校経営方針を意識し、育てる生徒像に向けた学校全体としての方針を今一度確認する必要がある。 ⑤No.8は良好な評価であった。しかしながら、要改善を示す数値(13%)を示している点に着目する。「より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している」については、「働き方改革」領域の他の項目との関連性を考慮しつつ、改善において検討が必要であると考察する。 ⑥No.16「情報教育」及びNo.23「PTA」について、昨年度は要改善の割合が11%であった。各部署の改善に向けた取組や職員の意識により、僅かではあるが改善がみられた。今後も情報教育の充実、PTAとの連携等に留意しつつ学校運営に取り組んでいく。 ⑦No.11及び12、14~18、25については、教職員自身が課題と捉えている意識の反映であろう。校内外の研修を活用し、各自の専門性と資質向上を図り、児童生徒一人一人の確かな実態把握と教育的ニーズに基づいた支援・指導計画を作成し、個に応じた指導支援の充実を図ることによって改善に繋げる体制作りを推進する。